国際社会の諸問題を
自分事として考えよう

氏名：荒川　清政　　学校名：宮城県古川黎明学校
担当教科：社会　　実践教科：中学社会　公民分野
時間数：24 時間　　対象学年：３学年　　人数：105 名

【実践概要】

<table>
<tr><td colspan="3">【1】単元(活動)名：私たちと国際社会</td></tr>
<tr><td colspan="3">【2】単元目標：
持続可能な開発目標（SDGs）に触れながら，対立と合意，持続可能性などに着目して具体的な課題を捉え，誰ひとりとして取り残さない国際社会の諸問題解決に向け，多面的，多角的に考察，構想，表現できるようにする。

関連する学習指導要領上の目標：持続可能な社会を形成することに向けて，社会的な見方・考え方を働かせ，課題解決を探究する。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">【3】
単元の
評価規準</td><td>① 知識及び技能</td><td>国家間の相互の主権の尊重と協力，各国民の相互理解と協力および国際機関などの役割の大切さを認識し，日本国憲法の平和主義について理解を深めるとともに，国際社会における課題の解決のために経済的，技術的な協力などが大切であることについて理解し，その知識を身につけている。</td></tr>
<tr><td>②思考力、判断力、表現力等</td><td>国際社会およびわが国の果たす役割について，国際社会の活動にかかわるさまざまな事象から課題を見いだし，対立と合意，効率と公正などの視点から多面的・多角的に考察し，その過程や結果を適切に表現している。</td></tr>
<tr><td>③学びに向かう力、人間性等</td><td>情報を多面的，多角的に収集する力を身に着けている。
アフリカ＝貧困という固定観念を払拭する力を身に着けている。</td></tr>
<tr><td>【4】
単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)</td><td colspan="2">【単元設定の理由】
本研修で学んだ開発教育の要素を入れ，開発途上国の抱える諸問題を自分事として考え，自分の行動を見つめ直すきっかけとする。
【単元の意義】
先進国において開発途上国についての情報は、伝聞によるものがほとんどを占める。その中で，実際に目で見て，話を聞いて，体験して得た生きた情報は，生徒の心を揺さぶるものになると考えられる。</td></tr>
</table>

	【児童／生徒観】 教科を担任する3学年は，男子40名，女子65名の学年である。中学校入試を経て入学をしてくるため，学習意欲が旺盛である。中学３年の卒業後にオーストラリアへの語学研修もあるため，海外へ興味も持つ生徒が多くいる。しかしながらその興味も大抵は欧米の先進国への憧れであり，開発途上国への興味は低いのが現状である。また，今回扱うアフリカ（タンザニア）のイメージのレディネステストを行ったところ，『貧しい』『遅れている』『かわいそう』などのマイナスのイメージを持っている生徒が多々いる。 【指導観】 教科で授業を展開するため，中学社会科として教えないといけないものと開発教育的要素のバランスをとりつつ展開する必要がある。また，ICT推進校であるため，iPadを使用して，主体的に学ぶ授業を展開する。また，教科書にはまだ記載されていない持続可能な開発目標（SDGｓ）について，国際社会の解決すべき課題であることを知り，自分ができる行動は何か考えさせたい。

6. 単元計画（全８時間）

時	『小単元名』 学習のねらい	学習活動	資料など
1	『国家と国際社会～領土をめぐる問題～』 ・主権国家とは何かを考える。 ・国旗国歌とは何か考える。 ・日本の領土問題から世界の対立にはどのような種類があるか考える。	・国家の三要素，国家の領域を知る。 ・日本の領土問題を知る。 ・オリジナルフラッグを作成し，理想の国家像を描く。【資料１】	・オリジナルフラッグ【資料１】
2	『今なお解決しない紛争』 ・アフリカ大陸に焦点をあて，紛争の理由を俯瞰的にとらえる。 ・紛争の原因を先進国の科学技術の向上から考える。(コンゴ紛争)	・紛争の原因を考える。【資料２】 ・３つの民族が対立しない国境や政策を考える。【資料３】 ・タンザニアの民族融和政策を知る。【資料４】	・映像(コンゴ紛争)【資料５】 ・ロイロノートスクール
3	『核兵器の脅威と軍縮』 ・先進国の科学技術が世界全体を恐怖に陥れていることを知る。 ・軍縮が戦争を防止し，世界平和の確立に必要であることを知る。	・核抑止力について知る。 ・アンゴラ内戦における，対人地雷の脅威と日本の支援について知る。	・映像（コマツの対人地雷除去機）【資料６】
4	『戦争被害と人権』 ・難民について，アクティビティを通じて考える。	・難民の現状を疑似体験し，生活の困難さについて知る。【資料７】	・難民すごろく（国境なき医師団）【資料８】
5	『国際連合のはたらきとそのしくみ』 ・国際連合の平和の取り組みについて，具体的にどのような方法があるか知る。	・国際連合の仕組みを知る。 ・持続可能な開発目標（SDGs）について知る。 ・日本の SDGs 達成度ランキングを作成する。【資料９】 ・貧困の原因について考える。	・日本，２０１９年レポート【資料１０】

6	『地域機構と世界の経済格差』 ・地域機構の仕組みを知る。 ・南北問題の原因を知る。	・EU の具体的取り組みについて考える。 ・タンザニアの写真と先進国を比べ，格差を考える（フォトランゲージ）	・写真【資料１１】
7	『国際社会における日本の役割』 ・国家の枠を越え，政治的・経済的協力を進める地域機構の存在を知る。	・日本の外交の三原則を知る。	
8 本時	『国際社会のより良い発展』 ・人間の安全保障について知る。 ・政府開発援助について考える。	・国家間の格差が拡大し，発展途上国でさまざまな問題が起きていることに気づく。（日本とタンザニアの違い） ・日本の政府開発援助の優れているところを知る。 ・格差を縮めるための自分ができる行動を考える。	・世界銀行貧困マップ ・緒方貞子氏の映像【資料１２】 ・収集してきた客観的データ【資料１３】 ・ロイロノートスクール

7．本時の展開（８時間目）

本時のねらい：

人間の安全保障の考え方を理解する。そのためには，あなたはどのような行動ができますか。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 （支援）	資料（教材）
導入 （5分）	・私たちが世界の人々と共存していくためには，どうすればよいでしょうか。 本時の課題 「人間の安全保障」の考え方を理解する。 ・格差をなくすこと，政府開発援助（ODA）の仕組みを知る。	・世界銀行貧困マップを投影 ・緒方貞子氏の映像から人間の安全保障を学習することを知る。	・世界銀行貧困マップ ・緒方貞子氏のニュース映像
展開 (35 分)	・開発途上国で生活する人々の生活スタイルから，『日本との共通点』，『日本との相違点』を写真やデータから考える。 ①生徒の１日のスケジュール ②バニラ生産での収入 ③病院の環境 ④中学校の教室の環境（机，教科書） ⑤ODA によるインフラ整備をする工事現場 ⑥都市部のスーパー ⑦小学校の生活環境 ⑧農村での生活（ランタン） ⑨ゴミの問題	・１つの課題をクリアするごとに，新たな資料を選択し，多面的，多角的に読み取れるようにする	・ロイロノートスクール

	・上記の問題点は，SDG s のどの問題に当てはまるかグループで考える。	・SDG s の 17 のゴールより，忘れてしまった SDG s の内容については，動画で確認を行う	・SDGs の映像
まとめ (10 分)	・グループで取り組んだ課題で興味を持ったものについて，SDG s の観点から，自分ができる具体的な行動を考える。	・自分の行動がアフリカとの格差をなくす一助になることを知り，自分達のできる具体的行動のアイデアがでるよう声がけを行う。	
	・国際社会に対して，自分ごととしてできる行動を発表する。	・取り組んで，興味を持てた資料を提示する。	
	・ODA には良いところもあれば，課題もあることを知る。	・モザンビークの映像を例に，現地の人の声を知る。	

【7】　評価規準に基づく本時の評価方法

①地球市民の一員であることを知り，自分の生活を見直し，行動することができる。

②地球市民の一員であることを知り，自分の生活を見直すことができる。

③地球市民の一員であることを知る。

【8】学習方法及び外部との連携

タンザニアからの帰国後すぐに，海外研修に同行頂いた JICA 東北市民参加協力課の高橋泰行氏（青年海外協力隊経験者、ペルー派遣）を招いて，「国際協力とは」，「JICA とは」，「ペルー体験記」について，土曜日 3 時間の出前講座を実施した。8 月実施ではあったが，10 月下旬から授業を展開するときに，「国際協力」のレディネスがあったため，導入としてとても良い講演会になった。

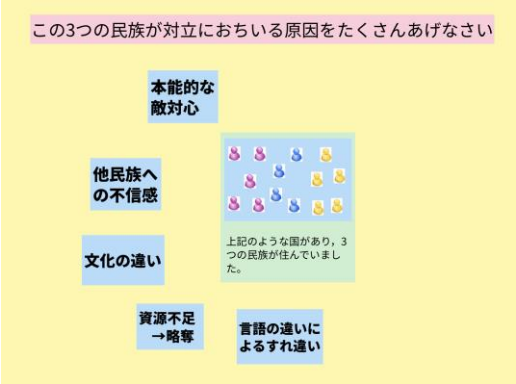
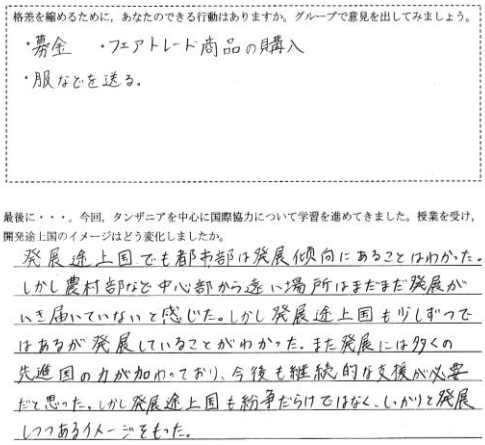
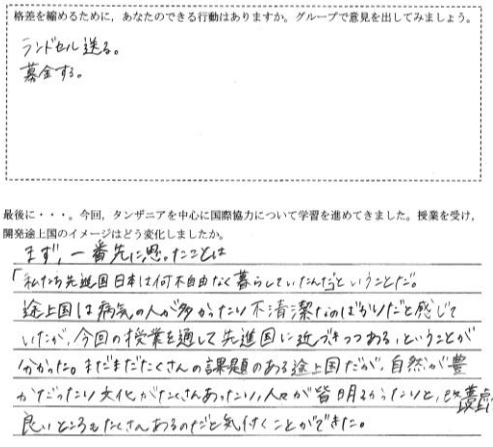
【9】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

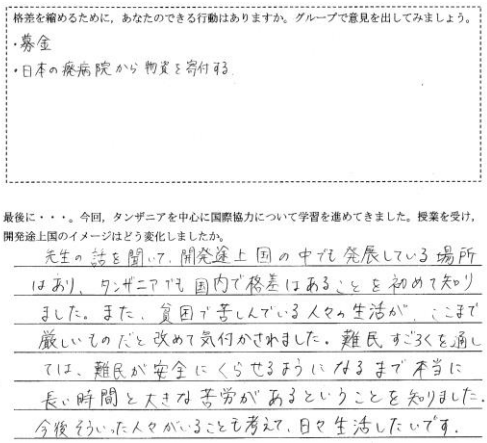
・中学 3 年生時にオーストラリアへの語学研修を実施する。その際に，留学エージェントによる国際理解教育が系統的に行われている。

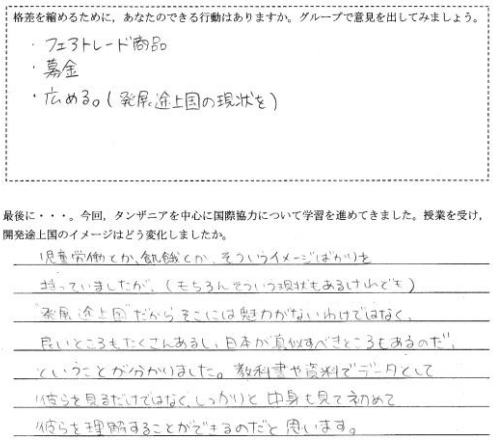
・中学 3 年生時に課題研究があり，歴史，地理，文化，環境の分野でフィールドワークを行い，SDGs の視点からレポートを作成している。

・中高一貫校のため，文部科学省で募集をしている「トビタテ留学ジャパン」に中学生も応募することができる。国際理解教育の視点から資料作成の指導を行い，留学の支援を行っている。

【自己評価】

【10】苦労した点	・本校の 1 時間は，45 分で展開している。そのため，JICA の事前研修で学んだ様々なアクティビティを実施すると時間がなくなり，中途半端なまとめとなってしまうことがあった。 ・教科で授業実践を行ったこともあり，1 時間全て開発教育の内容で授業を展開することは，難しかった。社会科の教えるべき内容もあるため，バランスが難しかった。
【11】改善点	・社会科の強みを活かし，通年で細く長く様々な単元で開発教育を盛り込んで授業を展開していくのが理想だと考える。そのためにも，入手してきた情報，映像，写真がどの単元で効果的に使用できるか熟考する必要がある。 ・学年の早い段階で，SDGs を教えれば，様々学習に応用が可能であり，行動目標に置き換えることができると思われる。
【12】成果が出た点	・SDGs を中心として，自分たちの行動を振り返る尺度として用いるだけではなく，レポートのまとめ方にも応用できる生徒が現れ始めた。 ・物事の見方や考え方が自分の住んでいる先進国中心の視点であったが，開発途上国の人々の視点を持ち，立場を考えることができるようになった。 ・地球的課題を自分事として，中学生にできる行動は何かを考えることができた。
【13】学びの軌跡（児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど）	 【資料２：紛争の原因】 【資料３：対立しない国境，政策作り】  格差を縮めるために，あなたのできる行動はありますか。グループで意見を出してみましょう。 ・募金　・フェアトレード商品の購入 ・服などを送る。 最後に・・・。今回，タンザニアを中心に国際協力について学習を進めてきました。授業を受け，開発途上国のイメージはどう変化しましたか。 発展途上国でも都市部は発展傾向にあることはわかった。しかし農村部など中心都から遠い場所はまだまだ発展がいき届いていないと感じた。しかし発展途上国も少しずつではあるが発展していることがわかった。また発展には多くの先進国の力が加わっており、今後も継続的な支援が必要だと思った。しかし発展途上国も紛争だらけではなく、しっかりと発展しつつあるイメージをもった。 【生徒の変容１】  格差を縮めるために，あなたのできる行動はありますか。グループで意見を出してみましょう。 ランドセル送る。 募金する。 最後に・・・。今回，タンザニアを中心に国際協力について学習を進めてきました。授業を受け，開発途上国のイメージはどう変化しましたか。 まず，一番先に思ったことは「私たち先進国日本は何不自由なく暮らしていたんだ」ということだ。途上国は病気の人が多かったり不清潔なのはかわいそうだと感じていたが，今回の授業を通して先進国に近づきつつある，ということが分かった。まだまだたくさんの課題のある途上国だが，自然が豊かだったり文化がたくさんあったり，人々が皆明るかったりと，自然環境も良いところもたくさんあるのだと気付くことができた。 【生徒の変容２】

<table>
<tr>
<td></td>
<td>

格差を縮めるために，あなたのできる行動はありますか。グループで意見を出してみましょう。
・募金
・日本の廃病院から物資を寄付する

最後に・・・。今回，タンザニアを中心に国際協力について学習を進めてきました。授業を受け，開発途上国のイメージはどう変化しましたか。
先生の話を聞いて，開発途上国の中でも発展している場所はあり，タンザニアでも国内で格差はあることを初めて知りました。また，貧困で苦しんでいる人々の生活が，ここまで厳しいものだと改めて気付かされました。難民すごろくを通しては，難民が安全にくらせるようになるまで本当に長い時間と大きな苦労があるということを知りました。今後そういった人々がいることも考えて，日々生活したいです。
【生徒の変容３】
 
格差を縮めるために，あなたのできる行動はありますか。グループで意見を出してみましょう。
・フェアトレード商品
・募金
・広める。（発展途上国の現状を）

最後に・・・。今回，タンザニアを中心に国際協力について学習を進めてきました。授業を受け，開発途上国のイメージはどう変化しましたか。
児童労働とか，飢餓とか，そういうイメージばかりを持っていましたが，（もちろんそういう現状もあるけど）
“発展途上国”だからそこには魅力がないわけではなく，良いところもたくさんあるし，日本が真似すべきところもあるのだ，ということが分かりました。教科書や資料でデータとして彼らを見るだけではなく，しっかりと中身も見て初めて彼らを理解することができるのだと思います。
【生徒の変容４】
</td>
</tr>
<tr>
<td>【14】授業者による自由記述</td>
<td>・百聞は一見に如かず
社会科教員として，教科書に書かれている知識が正しいものか再確認することができた。実際には，アフリカ地域の教科書の記述やデータは現地で感じたものよりずっと古く，教員として様々な媒体を使って，最新の情報を収集していく教材研究の必要性を感じさせられた。また，生徒の授業への食いつきも，伝聞よりも経験，体験してきた教材のほうが良かった。
・感謝
たくさんの方々より協力を貰い，今回の研修を充実して終えることができる。JICA の方々はもちろん，タンザニアで出会った協力隊や現地の人々，そして本研修で苦楽を共にした先生方，研修参加を承諾してくれた家族，タンザニアを中心に様々な人と出会えたことが何よりの財産となった。さらに，私たちの移動宿泊を手配してくれたのが，タンザニアでツアー会社を構えた高校時代の友人であり，タンザニアの地で 19 年ぶりに再会できたのは，人生の中でも感慨深い出来事となった。</td>
</tr>
</table>

参考資料：

＜文献＞

・学習指導要領（文部科学省）

・2018 年度教師海外研修報告書

・FACTFULNESS（日経 BP 社）

・社会科 アクティブ・ラーニングへの挑戦（明石書店）

＜映像＞

・コンゴ：レアメタル争奪戦の犠牲者（YouTube）

・KOMATSU 対人地雷除プロジェクト（KOMATSU HP CSR 動画ライブラリー）

・子どもたちの声（シリア難民）（セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン YouTube）

・SDGs とは？（SDGs チャンネル YouTube）

・緒方貞子氏の功績（YouTube）

＜教材＞

・難民すごろく（国境なき医師団）

添付資料

【資料１：オリジナルフラッグ】

【資料２：紛争の原因】

【資料３：対立しない国境と制作】

【資料 4-1：タンザニアの民族融和政策①】

【資料 4-2：タンザニアの民族融和政策②】

【資料 4-3：タンザニアの民族融和政策③】

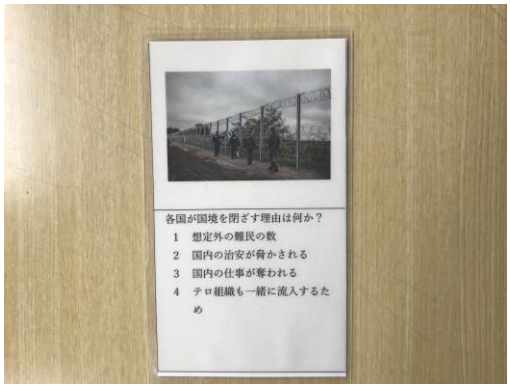
宗教

- キリスト教　約40%
- イスラム教　約40%
- 土着宗教　約20%

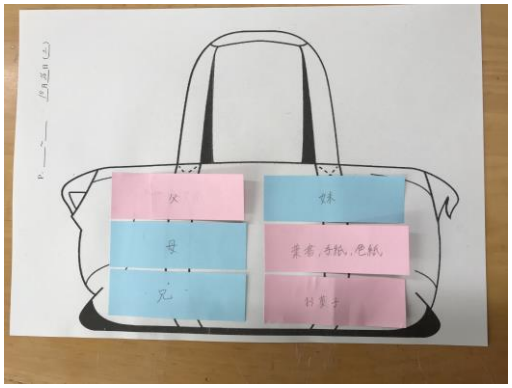
【資料５：コンゴ紛争（映像)】

【資料６：ＫＯＭＡＴＳＵ 対人地雷除去機（映像)】

【資料 7-1：難民すごろく，イベント札】



【資料 7-2：難民すごろく，もっていけるもの】



【資料 7-3：子どもたちの声（映像）】

【資料 8：難民すごろく】

【資料 9：日本の達成度ランキング】

【資料 10：2019 年レポート】

2019　SDG s の日本の評価

【資料 11：フォトランゲージ（違い）】

【資料 12：緒方貞子氏の功績（映像）】

【資料 13：客観的データをカードにしたもの】

①生徒の 1 日のスケジュール

名前　コペンド（女性）　15歳
家族　父・母・姉・弟・妹・本人
夢　ジャーナリスト

1日のスケジュール
・7:30　バスで登校（25分）
・16:00　下校
・17:00　帰宅後
制服を洗う
食事の準備（皿洗い等）
勉強（1時間程度）
・20:30　就寝
みなさんの1日と比べ，異なる点はあるでしょうか。

②バニラ生産での収入

名前　ジャコブ（男性）　？歳
家族　？
夢　バニラの生産を拡大する

元々は，庭師の仕事をしていましたが，JICAからの技術支援を受け，バニラ栽培を始めました。バニラは，買い取り価格が安定（1kg=550ドル）しており，家計の現金収入の助けとなっています。品質の良いバニラを生産するため，写真からどのような工夫をしていますか。

③病院の環境

施設　ムヒンビリ国立病院
概要　タンザニア最大の国立病院
現状

どの病院も受け入れることができない傷病者を受け入れる最後の病院です。タンザニア初の小児科の救命救急病棟で，12病床を設けている。タンザニアの子どもは下痢で命を落とすことが多いが，日本の場合は，下痢で死亡する子どもは，ほとんどいません。写真より，日本の病院との共通点は何でしょうか。

④中学校の教室の環境（机，教科書）

施設　コーラヒル中等学校
概要　教室の環境
現状

教室の大きさは黎明中学校の大きさとほぼ同じです。1つの教室に黎明では，35名の生徒数ですが，コーラヒル中等学校は93名が授業を受けています。また，机の大きさは，配布した青のビニールテープで再現できます。黄色のビニールテープを角として，長方形を作ってみましょう。この机の広さを6人で使用します。どのような学習環境になるでしょうか？

⑤ODA によるインフラ整備をする工事現場

施設　道路の建設現場
概要　工事の方法
現状

日本の政府開発援助（ODA）における，道路の建設現場の映像と写真です。日本の建設現場との共通点や異なる点を挙げましょう。

⑥都市部のスーパー

施設　スーパーショッパーズ
概要　商業施設
現状

ダルエスサラームのスーパーです。どのような商品が並んでいますか。また，日本との違いはありますか？

⑦小学校の生活環境

施設　キラカラ小学校
概要　学習環境
現状

映像より，教室の様子を黎明と比べてみましょう。また，キラカラ小学校は水道がありません。水道がないとどのように学校生活を送らないといけないでしょうか。

⑧農村での生活（ランタン）

施設　チャンボ（象）村
概要　農村の生活の様子
現状

この村の20～30%の家では電気を引いている。電気工事に27000TZSと月々の料金がかかるため，多くの家では，まだ電気を引いていない。そのため，レンタルのソーラーランタン（500TZS）が重宝しています。ソーラーランタンがあると，生活はどのように変わるでしょうか？

⑨ゴミの問題

施設	道路沿いにできた町
概要	ゴミがたくさん落ちている町並み
現状	

写真から，整備されていない道のあらゆるところにゴミが落ちているのがたくさん見られます。どうして，こんなにゴミが落ちているのでしょうか。